

## 令和2年度第1回高松市入札監視委員会の結果について

- 1 開催日時 令和2年7月22日（水）午後2時00分から午後3時10分まで
- 2 開催場所 高松市防災合同庁舎 3階 301会議室
- 3 出席者 委員5名

### (1) 委員

委員長	紀伊雅敦	(香川大学創造工学部教授)
委員長代理	富家佐也加	(弁護士)
委員	天谷研一	(香川大学経済学部准教授)
委員	春日川路子	(香川大学法学部准教授)
委員	塚本秀和	(公認会計士・税理士)

### (2) 市側出席者

森田財政局長、外村財政局次長（契約監理課長事務取扱）、後藤契約監理課長補佐、鴻上契約監理課技術検査室検査担当課長補佐、松本建築課長、今岡下水道施設課長、吉田創造都市推進局部長（文化芸術振興課長事務取扱）、吉峰観光交流課観光エリア振興室長、末原農林水産課長補佐ほか

## 4 会議の概要

### (1) 報告

ア 市発注工事等の入札・契約状況などについて

#### (ア) 工事等の発注状況について

令和2年1月から4月までの工事及び建設コンサルタント業務などの発注状況について報告を受けた。

#### 工事

一般競争入札 28件 公募型指名競争入札 25件 指名競争入札 6件  
随意契約 3件 随意契約（緊急工事） 9件

合計 71件 約30億7,135万円

#### 建設コンサルタント業務

公募型指名競争入札 2件 随意契約 7件

合計 9件 約1億9,806万円

#### (イ) 指名停止の状況について

令和2年1月から4月までに行った指名停止等の状況について報告を受けた。

合計 3者

### (2) 審議（抽出事案について）

令和2年1月から4月発注工事のうち、委員会があらかじめ契約方式別に以下の4件の工事等の事案を抽出し、指名の経緯などについて審議した結果、いずれの事案も

指摘に相当する問題点はなかった。

**抽出事案**

- ア 高松市屋島山上拠点施設（仮称）建設工事  
一般競争入札 建築一式工事
- イ 高松市食肉センター枝肉用計量器改修工事  
公募型指名競争入札 機械器具設置工事
- ウ 東部下水処理場ガス回収・加温設備改築実施設計業務委託  
公募型指名競争入札 土木関係建設コンサルタント
- エ 高松市文化芸術ホール改修実施設計業務委託  
随意契約 建築関係建設コンサルタント

(3) その他

- ・ 次回の会議の日程 令和2年10月（予定）

5 質疑応答（要旨）

質 問 ・ 意 見	回 答
<p>「高松市屋島山上拠点施設（仮称）建設工事」</p> <p>・ 不調が3度続いたとのことだが、入札参加条件の緩和は行ったのか。</p> <p>・ 落札者は、1回目から3回目までの発注時には、入札参加資格を有していなかったのか。</p> <p>・ 不調であった3回とも、予定価格を上回っていたのか。</p>	<p>・ 本市では、入札不調となった場合、最新の単価に入れ替えるなど、設計内容の見直しや、入札参加条件のうち、地域要件を緩和するなど、案件ごとに対応を検討し、再度、発注を行っている。</p> <p>本案件においては、労務単価の見直しのほか、入札参加者の地域要件を、1回目の発注時には、市内企業に限定していたものを、2回目は市内に営業所を有する準市内企業までとし、3回目は地域要件を撤廃し、入札参加条件をさらに緩和した上で発注したが、いずれも不調となったものである。</p> <p>・ 落札者は、1回目の発注時から応札しており、入札参加資格を有していた。</p> <p>・ 過去3回とも、予定価格を上回っていたものである。</p>

<p>・ 応札者が予定価格超過を踏まえ、入札額を再検討したのか、それとも、応札者の過去の入札価格を踏まえて、予定価格を見直したのか。</p>	<p>・ 3回の不調を受け、業者から提出された積算内訳書の分析や複数の業者から建設市場の現状などのヒアリングを行った上で、適正な積算単価等に基づき、改めて予定価格の設定を行った。加えて、当初別発注としていた設備工事について、昨年の不調件数が増加傾向にあることを踏まえて、これ以上施設の完成が遅れることのないよう、本案件に含めて一体発注としたため、予定価格は増加したものである。</p> <p>なお、ヒアリング等はあくまでも参考としたものであり、過去3回の応札額を基準に予定価格を設定したというものではない。</p>
<p>・ 本案件に直接関係はないが、新型コロナウイルス感染症拡大による発注への影響はあるか。</p>	<p>・ 発注や現在施工中の工事案件においては、中止などの影響は生じていないが、一部、施工に必要な備品の品不足により工期を延長した案件や、委託業務において、東京都に本社を置く業者が、他県への移動が困難であることから来高できず、業務を1か月程度中断した案件がある。</p> <p>なお、今年度に入ってから、建築一式工事や設備工事について、昨年と比較した場合、応札者数は増加傾向にある。</p>
<p>・ 本案件の施工場所は、発注以前はどのように利用されていたのか。</p> <p>「高松市食肉センター枝肉用計量器改修工事」</p> <p>・ (枝肉用計量器という) 特殊な機械だが、何者指名したのか。</p>	<p>・ ホテルが建てられていたが、更地となった後、本市が借り上げ、本案件を発注したものである。</p> <p>・ 応札可能業者は、全国で4者であり、そのうち2者が本市名簿に登録されてお</p>

<p>「東部下水処理場ガス回収・加温設備改築実施設計業務委託」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・過去の施工件数ではなく、金額に基づく施工実績を求めるのはなぜか。</li> <li>・本業務は、バイオマス発電の稼働率を高めていく目的があると思うが、どの程度上がる見通しなのか。</li> <li>・本業務により、処理場全体の経費削減となるのか。</li> <li>・予定価格が事前公表されている中で、過去2回中止となっていることを踏まえても、多数の応札が見込めないことが想定されるにもかかわらず、落札率が50%台と低いのはなぜか。</li> </ul>	<p>り、参加申請のあった1者を指名した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国や地方公共団体等が発注した公共工事の実績について、過去の施工件数が1件であったとしても、発注する案件の金額に応じた金額の施工実績を有していれば、適切に施工できるものと考えている。 また、過去の施工件数で実績を求めた場合、応札者が限定されてしまうおそれがあるため、応札機会確保のためにも、金額を基準とした実績を求めている。</li> <li>・ガス発生量には季節変動があるが、現在の80%程度から、バイオマス発電が100%となるように進めている。</li> <li>・固定価格買取制度期間は大幅な経費削減となる。</li> <li>・業務委託の場合は、過去の類似案件の成果物を利用することが可能な場合があることなどから、落札率が低いものと考えられる。また、3回目の発注に当たり、業務内容を見直し、耐震設計業務を追加したため、予定価格が増加したことも要因として想定される。 なお、平成30年度における平均落札率は、土木関係建設コンサルタントが57.89%、建築関係建設コンサルタントが63.7%であり、土木一式工事や建築一式工事などの工事と比較して低い状況にある。</li> </ul>
---	--

<p>「高松市文化芸術ホール改修実施設計業務委託」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・業者推薦理由の中で、「平成30年度に当該施設の改修検討業務を実施した」とあるが、当該業務の発注方法は随意契約と競争入札のどちらであったのか。</li> <li>・本案件の随意契約の相手方は、市内企業なのか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門的かつ高度な技術が必要であること及び耐震設計の観点から、当該施設の建設時の設計者を随意契約の相手方としたものである。</li> <li>・市外企業である。</li> </ul>
--	--